

諸見里明 沖縄県教育委員会教育長の「講演会」に参加して

◎10月22日、具志頭中学校PTAの主催する県教育長の講演会が開催されました。諸見里明 沖縄県教育委員会教育長が母校の生徒を前に「夢を実現しよう。誰にでも奇跡は起こせる!」の演題のもと、「夢は見るものではない、あこがれるものでもない、夢とは掴むものである」「死にものぐるいで夢に実現のために努力すれば、必ず叶う。具志頭中の先輩方には、その夢を実現した方々が多くいる」と、熱く語られました。本研究員も講演会を拝聴し、下記の感想を記しています。

講演会では、いくつかのキーワードがありましたが、私は講演会を通して考えさせられたことが3つありました。

1つめは、話すときの「論立て(構成)」の重要性です。何かを書くとき、人前で話をするとき、「はじめ、なか、おわり」「起承転結」等の話(文)の構成がはっきりしていないと、論点や前後のつながりが相手に伝わりにくいことです。子ども達にも、授業や1分間スピーチでその都度、伝えていきたいと再確認できました。

2つめは、他者を紹介することで、その方の生き方や考え方を伝え、子ども達が多角的な方向から「生きる」ことを考えられるということです。ある本に、自分の自慢をするより他者を自慢する方が、人は倍にその人の良さを受け止める。というような内容がありました。人は、常に一人ではなく、何かや誰かとの出会いで生き方の方法を学んでいるのだと考えました。

最後に、諸見里教育長のお話は、「気づき・考え・行動することにつながると思いました。自分がこのままでいいのかと気づき、ではどうすればいいのか考え、考えたら行動に移す。このサイクルが、人を成長させていくのだと思いました。「夢(目標)」があれば、いつかそのチャンスを掴むことができると信じる私にとって、励みになりました。(外間)

人間やる気があればどんどん変わる。変わるためには、夢を持ち、その夢に向かって今の自分を捨てて「本気をだし、死にものぐるいで」。そのこと言葉が印象に残っています。今の自分を捨てるということは、勇気のいることでなかなか実行できない。自分を変えられるのは、自分しかない、それを支えるのが夢である。今の子ども達は、どれだけの子が夢を持っているだろうか。子どもが夢をもつために私たち大人がどう子どもと関わっていけばいいのかが問われているのかなと感じました。

講演の中では、地域の方々の話を紹介することで子ども達に、夢をもつことの大切さを感じることができたと思います。幼稚園では、「自分でできたという気持ちを育てていく」ことが夢につながっていくことだと思います。(仲村)

教育講演会の中で、柔軟さと発想力を持って、死にものぐるいで頑張ることで夢の実現につながるということについて、教育長自身の体験談や同じ地元の方のお話も併せて伺うことができました。

「頑張ることができる」とはどういうことだろうと、考える機会となりました。目標となるものが明確であり、その目標に対する強い思いを持ち、そして努力を継続させるための支えが欠かせないと感じました。子どもが夢に向かって様々なことにチャレンジし続けられるよう、多くのことに触れる機会を与え、失敗や成功と一緒に共有し、前へ進めるようなサポートをしていけたらいいと感じました。(饒平名)

11月の予定

- 1日 宿泊研修3日目
- 〃 (県へき地研究大会2日目)
- 6日 所長講話②全体
- 〃 研究計画検討会
- 8日 所外研修③(沖適連講演会)
- 13日 進捗⑤テーマ検討会
- 16日 所外研修④(組踊り)運動フェアー(～18日)  
○佐敷幼稚園児・保護者
- 17日 ○南風原町6校PTA合同講演会運動フェアー  
○島尻地区内園児・保護者(午前・午後)  
○講演会運動フェアー
- 20日 ○東風平幼稚園児・保護者
- 〃 教育長講話
- 22日 第2回運営委員会
- 25日 所外研修⑤
- 26日 指導講師検討会(～27日)所外研修⑥



写真1 教育講演会にて